

若者語におけるル言葉について (Ⅱ)

—第二次アンケート調査の分析—

鄭 香 蘭

1、はじめに

「メモる」「トラブる」「皮肉る」「駄弁る」など名詞に接尾辞「る」をつける方法で動詞化した言葉を米川 (1996) は「“る”ことば」と命名している。本稿では、米川 (1996) の「“る”ことば」を「ル言葉」と表記する。ル言葉は若者語の一種として用いられる。若者語といえど、どの時代にあっても言葉の乱れとして批判されてきた。しかし、ル言葉は近年始まったことではなく、昔から造語能力の高い言葉であって、江戸時代からあった。

鄭 (2007a) は、『日本俗語大辞典』に収録されているル言葉145語の歴史的な流れをたどり、1841年の『春色梅美婦欄』に見られる「退治る」が一番古く用いられたル言葉であるとしている。その後の調査で「痴話る」がさらに古いことが判明した。「痴話」を動詞化した「痴話る」は、「男女がむつごとをいう。いちゃつく。また痴話狂いをする」という意味である。1782年の洒落本の『太平楽巻物』に「あげまきに助六、小むらさきに権八ともいふやうな、末の世までもうたはれるやうな事なく、ただわけもなくちわるも有」と記されている。(その他の追加調査については[付記]参照)

日本語には他の品詞に変わる品詞の転成がある。動詞からは「読み」「歩き」、形容詞からは「近く」「多く」など連用形がそのまま名詞として使われる「転成名詞」が多いのに比べて「転成動詞」は数少ない。「名詞＋る」の形で動詞化して用いる言葉や「短縮形＋る」の形で動詞化するル言葉は「転成動詞」としての役割を担っていると考え、アンケート調査により、その使用実態と認知度について迫っていききたい。

2、調査の目的

ル言葉のアンケート調査は鄭 (2007b) に続き、第二回目である。鄭 (2007b) の第一回目の調査は「ミスる」「告る」「パニクる」「ネグる」「ボコる」「ダブる」「ばくる」「キョドる」「無視る」の9語のル言葉について調査した。漢字表記かカナ表記か、新しいル言葉か古いル言葉かといった違いを調査した。「ばくる」については、「盗む」意味と「逮捕する」意味に分けて10項目のアンケート調査を実施したが、調査語数が少なかつたため十分な検討ができなかつた。

鄭 (2007a) の調査では、ル言葉の表記にはカタカナ表記、漢字表記、ひらがな表記の別があり、拍数においては、3拍語のル言葉が一番多く見られることが分かった。また、イメージとしてはプラス、ニュートラル、マイナスのル言葉があることも明らかとなった。

今回はル言葉の表記についてさらに詳しく分析するとともに、拍数、イメージの違いから10

語を選び、それぞれの使用実態と認知度を調べた。また、鄭(2007b)の調査にはなかった人名に「る」をつける「アムる」「江川る」や店名に「る」をつける「ガスる」を加え、ル言葉の特徴についても調査した。今回の調査では、『日本俗語大辞典』『現代用語の基礎知識』ならびにインターネット検索から語構成及び使用時期の違うもの10語を抽出し、使用状況の性差、年齢差、地域差を調査し、それぞれの使用実態を調べた。表1は調査語の辞典での初出状況である。

使用したアンケート調査票は、別添資料1参照。

<表1> 調査語の辞典での初出状況

調査語	初出
きゃびる	『OL10年やりました』(1990)(日本俗語大辞典より)
トラブる	『新西洋事情』(1975)(日本国語大辞典より)
江川る	『週刊朝日』(1979年5月18日号)(日本俗語大辞典より)
ちくる	『サンデー毎日』(1979年6月10日)(日本俗語大辞典より)
皮肉る	『あきらめ』(1911)(日本俗語大辞典より)
駄弁る	『模範新語通語大辞典』(1919)(日本国語大辞典より)

「メモる」「アムる」「ガスる」の初出状況は不明だが、『日本俗語大辞典』(2003)には掲載されている。それぞれの意味については後述する。

3、アンケート調査

アンケートは、2006年7月から10月にかけて実施した。全回答者数は1268人、無効回答者数64人であった。性別、年齢、職業、出身地のいずれかが空欄であるものは全て無効回答とした。また、中国、韓国出身者の回答も得られたが、調査対象から除外し、対象は日本語母語話者に限った。有効回答者数は1204人であった。

アンケート有効回答者の内訳を次の<表2><表3><表4>に示す。

<表2> 年齢別の内訳

(単位：人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	88	105	59	91	70	56	469
女性	227	175	76	119	84	54	735
合計	315	280	135	210	154	110	1204

<表3> 職業別の内訳

(単位：人)

学 生	社会人	その他
509	508	187

その他には主婦、無職、フリーターが含まれている。

<表4> 出身別の内訳

(単位：人)

山口	広島	福岡	佐賀	長崎	大分	岡山	島根	宮崎	鳥取
508	94	90	82	68	65	60	40	33	27
香川	兵庫	鹿児島	熊本	東京	愛媛	京都	大阪	徳島	岐阜
21	22	19	12	9	8	6	5	5	4
高知	愛知	神奈川	北海道	沖縄	奈良	新潟	福井		
4	3	3	3	2	2	2	2		

石川、静岡、長野、宮城、和歌山、各1名

<表2>に示したように、年代別では、10代、20代に集中している。また<表4>の出身別では山口県に集中した結果になっている。

4、アンケート結果と分析

4-1 調査語別・年代別集計結果

各調査語のA（使う）、B（使わないが聞いたことがある）、C（聞いたことがない）の選択率の実数結果を<表5>に示す。語の前にある番号はアンケート調査語の番号である。

<表5>調査語における年代別集計結果（実数）

(単位：人)

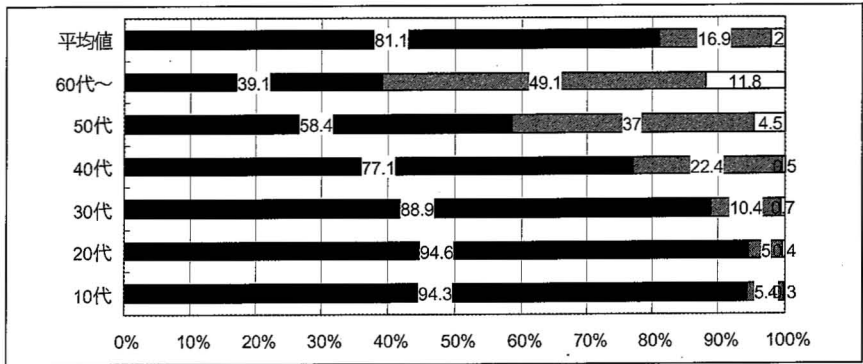
調査語	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
①メモる A	297	265	120	162	90	43	977
B	17	14	14	47	57	54	203
C	1	1	1	1	7	13	24
②アムる A	11	17	2	1	1	1	33
B	13	16	14	18	8	3	72
C	291	247	119	191	145	106	1099
③きゃぴる A	51	51	10	9	4	0	125
B	179	156	60	71	42	15	523
C	85	73	65	130	108	95	556
④トラブる A	232	215	114	158	100	54	873
B	68	45	14	44	43	45	259
C	15	20	7	8	11	11	72
⑤江川る A	4	5	1	0	1	1	12
B	16	27	16	51	31	18	159
C	295	248	118	159	122	91	1033
⑥ガスる A	16	22	7	8	6	2	61
B	48	51	20	15	14	8	156
C	251	207	108	187	134	100	987

⑦ガスる	A	17	24	17	23	14	4	99
	B	11	18	22	35	28	15	129
	C	287	238	96	152	112	91	976
⑧ちくる	A	269	227	102	112	57	25	792
	B	41	45	31	96	85	70	368
	C	5	8	2	2	12	15	44
⑨皮肉る	A	162	182	92	131	88	46	701
	B	130	80	36	64	47	40	397
	C	23	18	7	15	19	24	106
⑩駄弁る	A	139	149	63	91	63	41	546
	B	105	101	52	97	66	43	464
	C	71	30	20	22	25	26	194

4-2 年代別集計結果百分率グラフ

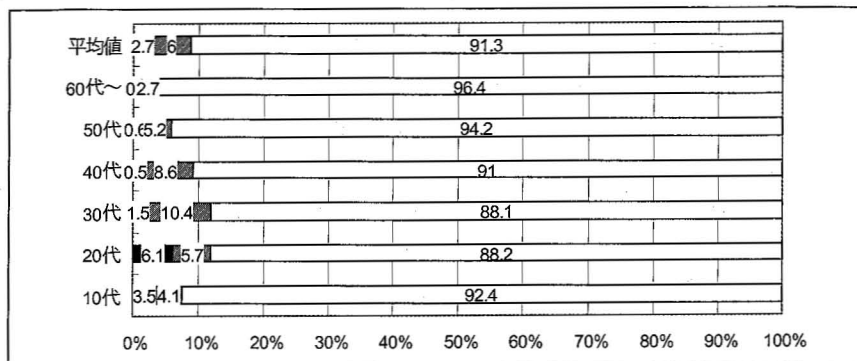
上記<表5>を百分率にして以下のグラフに示す。グラフ内の■はA「使う」を示し、▨はB「使わないが聞いたことがある」を示し、□はC「聞いたことがない」を示す。次に個々の語について全体の選択率、年代別の選択率を見ていく。なお、本研究では使用率はA「使う」を示し、認知率はA「使う」+B「使わないが聞いたことがある」を示す。

①メモる



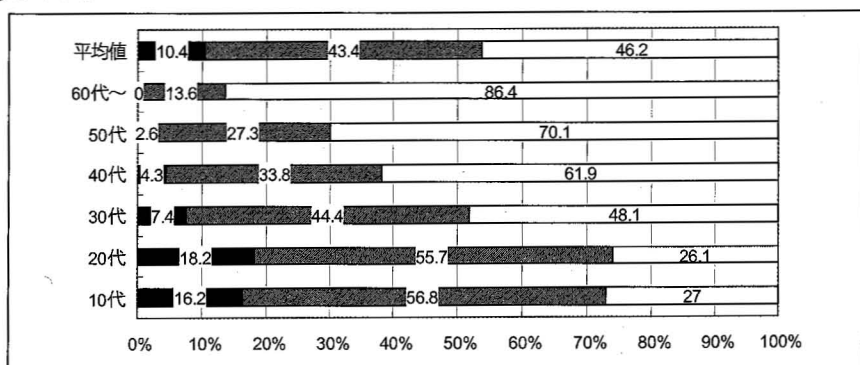
「メモる」は「メモをとる」「メモする」という意味である。全体の選択率は、「使う」が81.1%、「使わないが聞いたことがある」が16.9%、「聞いたことがない」が2.0%である。10代、20代の使用率は9割以上を超えている。30代は約9割、40代は7割を超える使用率である。50代の使用率は6割弱、60代以上の使用率は4割弱で、認知率は9割弱である。全体的な認知率は高いと言える。使用率に年代差はあるものの「メモる」の選択率はかなり高く、広く使用され、一般的になっていると言える。

②アムる



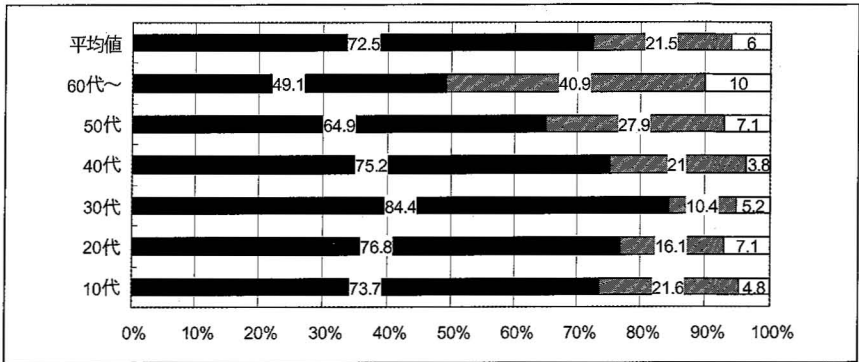
「アムる」は安室奈美恵の「アム」に動詞化する「る」をつけたもので、安室奈美恵の格好をまねるという意味である。全体の選択率は、「使う」が2.7%、「使わないが聞いたことがある」が6.0%、「聞いたことがない」が91.3%である。どの世代も認知度はかなり低く、あまり差が見られなかった。「アムる」は1990年代の若者語だったが、一般的に広まらなかったようだ。鄭(2007a)の調査でも明らかになったように人名に「る」をつけるル言葉は流行語として、人物にもよるが時間的にも、空間的にも広がりにくい傾向があるようだ。固有名詞に「る」をつけるル言葉は一過性を持つという特徴があると思われる。

③きゃびる



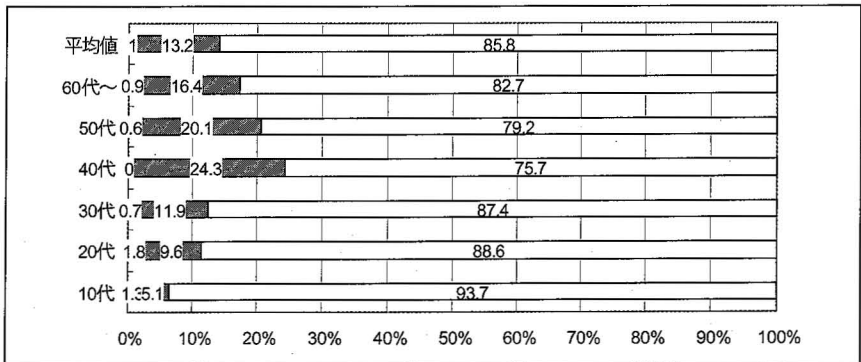
「きゃびる」は「きゃびきゃび」の略「きゃび」の動詞化したもので、若い女性のように明るく浮かれ、また若い女性のようにミーハーになるという意味である。全体の選択率は、「使う」が10.4%、「使わないが聞いたことがある」が43.4%、「聞いたことがない」が46.2%である。10代、20代の選択率も1割～2割程度で、使用率は低いが、認知率は7割台で高いと言える。30代は5割程度、40代は4割弱、50代は3割弱、60代は1割強で、年代が上がるにつれて認知率は低くなる。

④トラブる



「トラブる」は英語 trouble を動詞化したもので、仕事上のミス、人間関係のもめ事、困った事などが起き、またはそれを起こすという意味である。全体の選択率は、「使う」が72.5%、「使わないが聞いたことがある」が21.5%、「聞いたことがない」が6.0%である。10代から40代の選択率は7割以上であるが、50代は6割台で、60代以上の選択率は5割である。認知率は9割台である。1980年代からある言葉で、広く使用されているようである。「トラブる」を使うと深刻度が下がり、使いやすいという自由記述が見られた。

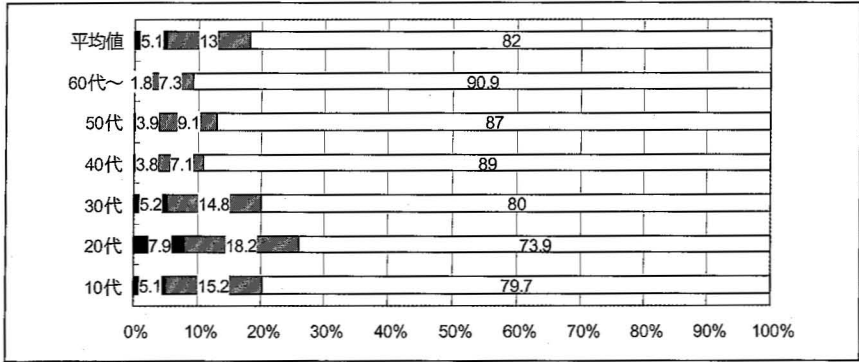
⑤江川る



「江川る」は野球選手の「江川卓」から出たことばで、ごり押しする、自分勝手な行動をするという意味である。全体の選択率は、「使う」が1.0%、「使わないが聞いたことがある」が13.2%、「聞いたことがない」が85.8%選択している。どの世代も認知度はかなり低く、あまり差が見られなかった。その中で40代、50代の認知度は他と比べて高い値になっている。1970年代の言葉で、おそらく、40代、50代の人若い頃に使われていたのではないと思われる。「江川る」も「アムる」と同様に人名に「る」をつけたル言葉で、流行語として一時的に流行してすでに使われなくなったル言葉ではないと思われる。アンケートに「かつて使ったこと

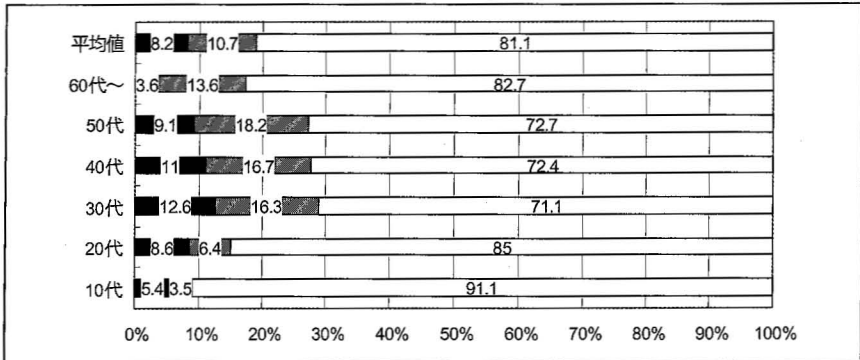
はあるが、今は使わない」という選択肢を入れておけば、違った結果が得られたかもしれない。

⑥ガスる



「ガスる」はガストで食事をするという意味である。全体の選択率は、「使う」が5.1%、「使わないが聞いたことがある」が13.0%、「聞いたことがない」が82.0%である。どの世代も使用率は低く、あまり使われていないようだ。アンケート回答者の周辺には、ガストがあまり多くなかったため、使用率が低かったとも考えられる。自由記述欄に、その店が身近にあるかが浸透度に関係してくると記されていた。「ガスる」が低い理由は次項の山など霧がかかる「ガスる」との区別がつきにくいのもその一因と考えられる。

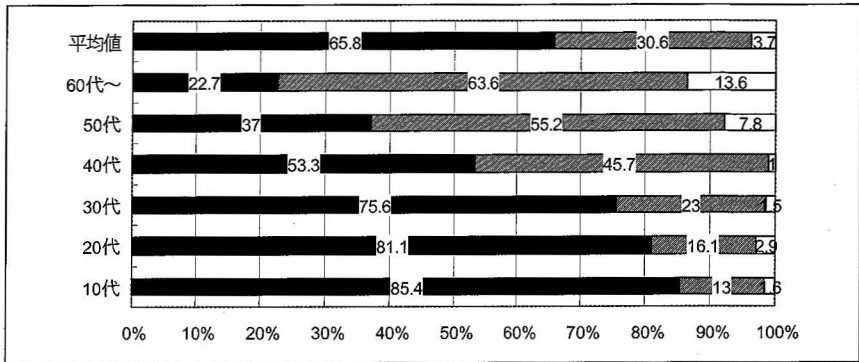
⑦ガスる



「ガスる」は「ガス」を動詞化したもので、山などに霧がかかるという意味である。全体の選択率は、「使う」が8.2%、「使わないが聞いたことがある」が10.7%、「聞いたことがない」が81.1%である。どの世代も使用率は低く、あまり使われていないようだ。40代、50代の認知率が他の世代より高いのは40代、50代の若い頃に山登りが流行り、「ガスる」という言葉を使う場面が多かったとする説もある。初出は不明であるが、前項の「ガスる」より古くから使わ

れていたル言葉であると言える。

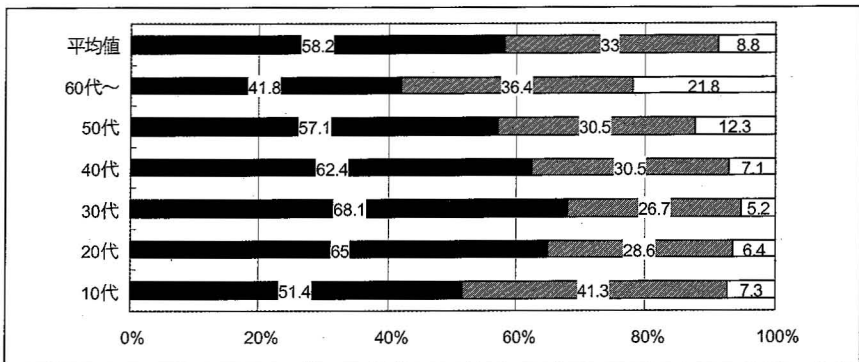
⑧ちくる



「ちくる」は「告げ口」の「口（くち）」を倒置して動詞化したものである。密告するという意味である。全体の選択率は、「使う」が65.8%、「使わないが聞いたことがある」が30.6%、「聞いたことがない」が3.7%である。10代から30代の使用率は7割～8割である。40代以上になると使用率が徐々に減っているが、認知率は8割以上である。「ちくる」は1970年代からのル言葉でかなり広く使われているようである。

梶村（2005）は「生徒方言とは『生徒文化』に属する語で、主に中学生や高校生・大学生または20代くらいまでの若年層に使用が見られる。子ども同士では使用するが教師に対しては使用しないため、教師集団が知らない場合も多い」としている。「ちくる」は生徒方言に属し、古くから使われていたために若年層に限定することなく広く使用され、認知されている。

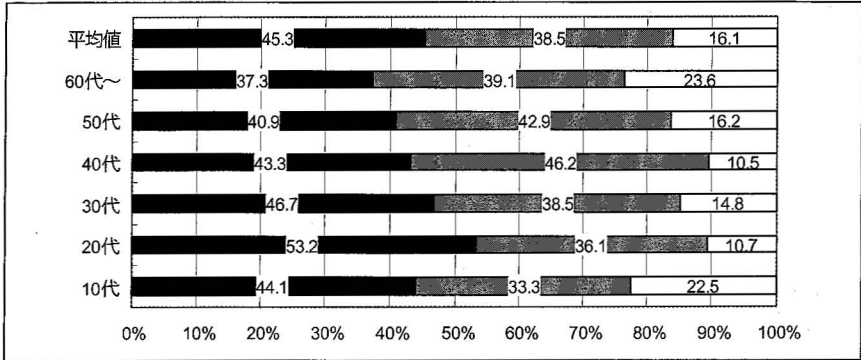
⑨皮肉る



「皮肉る」は、名詞の「皮肉」を動詞化したもので、「皮肉を言う」という意味である。全体の選択率は、「使う」が58.2%、「使わないが聞いたことがある」が33.0%、「聞いたことがない」が8.8%

が8.8%である。20代から40代の使用率が6割以上で他の世代と比べて使用率が高い。「皮肉る」は1910年代から使われている古いル言葉で、『広辞苑』（第五版）にも掲載されている。10代が5割程度、60代以上が4割程度と他の年代より使用率が低いのは、皮肉を言うというより皮肉を言われる側に立っていることが多いからかもしれない。

⑩ 駄弁る



「駄弁る」は「駄弁」を動詞化したもので、「べちゃくちゃおしゃべりする。くだらぬおしゃべりをする」という意味である。全体の選択率は、「使う」が45.3%、「使わないが聞いたことがある」が38.5%、「聞いたことがない」が16.1%、20代の選択率は5割以上で、他の世代の選択率は4割程度で、ほぼ同じ割合で使用している。認知度が高い割にそれほど使わない傾向があるようだ。

4-3 男女別集計結果

選択率を男女別に集計したものを次の<表6>に示す。

<表6> ル言葉の男女別集計結果

ル言葉の男女別集計結果	男性(実数)	男性(百分率)	女性(実数)	女性(百分率)
A (使う)	1654	35.3	2565	34.9
B (使わないが聞いたことがある)	1097	23.4	1633	22.2
C (聞いたことがない)	1939	41.3	3152	42.9

<表6>を見ると、男女の選択率は各項目ともほぼ同じで、差異は見られなかった。

4-4 調査語別に見た男女差集計結果

各調査語のA (使う)、B (使わないが聞いたことがある)、C (聞いたことがない) の選択率の結果を次の<表7>に示す。

<表7> 男女別による使用率

(単位：%)

調査語	男	女	調査語	男	女
①メモる A	79.7	82.0	⑥ガスる A	5.5	4.8
B	18.8	15.6	B	11.7	13.7
C	1.5	2.3	C	82.7	81.5
②アムる A	2.3	3.0	⑦ガスる A	10.4	6.8
B	7.2	5.2	B	15.1	7.9
C	90.4	91.8	C	74.4	85.3
③きゃびる A	6.4	12.9	⑧ちくる A	63.1	67.5
B	40.3	45.4	B	33.5	28.7
C	53.3	41.6	C	3.4	3.8
④トラブる A	75.9	70.3	⑨皮肉る A	61.2	56.3
B	19.0	23.1	B	30.7	34.4
C	5.1	6.5	C	8.1	9.3
⑤江川る A	1.5	0.7	⑩駄弁る A	46.5	44.6
B	17.7	10.3	B	39.9	37.7
C	80.8	89.0	C	13.6	17.7

男女に違いが見られたのは③「きゃびる」と⑦「ガスる」である。「きゃびる」は女性の認知率が58.3%と男性の46.7%より11.6ポイント高い。「きゃびる」は女性の動作や様子を表わす言葉で、女性が女性に対して用いる場合が多いためと考えられる。「ガスる」は男性の認知率が25.5%と女性の14.7%より10.8ポイント高い。「ガスる」は男性の方が山登りをして「ガスる」場面に遭遇することが多かった、あるいは運転中の霧の発生が原因として考えられる。

4-5 社会階層別集計結果

<表8> 社会階層別による使用率

(単位：%)

調査語	学生	社会人	調査語	学生	社会人
①メモる A	94.7	77.0	⑥ガスる A	5.9	4.9
B	5.1	21.1	B	14.1	13.8
C	0.2	2.0	C	80.0	81.3
②アムる A	4.9	0.8	⑦ガスる A	6.9	10.0
B	3.7	8.5	B	3.1	18.1
C	91.4	90.7	C	90.0	71.9
③きゃびる A	17.7	4.5	⑧ちくる A	83.9	56.9
B	55.2	37.8	B	13.6	39.8
C	27.1	57.7	C	2.6	3.3

④トラブル A	66.9	75.8	⑨皮肉る A	58.2	60.8
B	17.5	18.3	B	34.6	30.9
C	4.7	5.9	C	7.3	8.3
⑤江川 A	1.6	0.6	⑩駄弁る A	50.1	42.7
B	6.3	19.5	B	32.6	43.1
C	92.1	79.9	C	17.3	14.2

＜表 8＞に示したように、学生と社会人の間に差が表れているのは、③「きゃびる」⑧「ちくる」である。「きゃびる」は認知率72.9%であるのに対して社会人の認知率は42.3%と30.6ポイントの差があり、「きゃびる」が主に学生が用いるル言葉で集団語のカテゴリーに入ると思われる。社会人の不認知率は学生に比べて30.6ポイント高い。⑧「ちくる」の学生の使用率は83.9%で高い割合を示している。社会人の使用率は56.9%で27.0ポイントの差がある。「使わないが聞いたことがある」の割合は学生が13.6%であるのに対して、社会人は39.8%と26.2ポイントの差がある。社会人において「使わないが聞いたことがある」状況が多いようだ。「ちくる」は元々は学生語で、主に学生が先生に告げ口をする場合に使われているので、学生の使用率が高かったのではないかと考えられる。

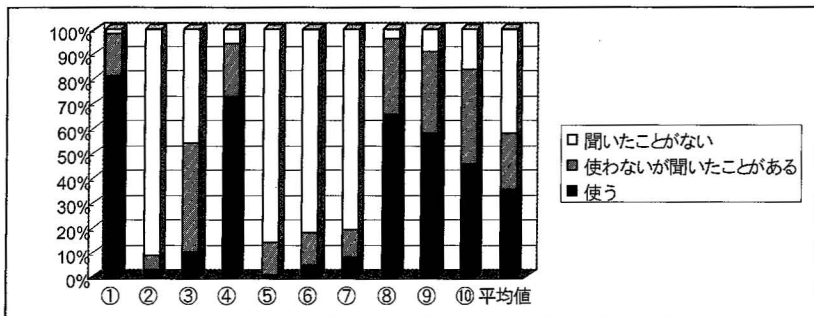
4-6 調査語別による集計結果

調査語の選択・使用率を集計したものを＜表 9＞に示す。次の＜図 1＞は＜表 9＞をグラフ化したものである。

＜表 9＞ 項目別による集計結果

(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	平均値
A	81.1	2.7	10.4	72.5	1.0	5.1	8.2	65.8	58.2	45.3	35.0
B	16.9	6.0	43.4	21.5	13.2	13.0	10.7	30.6	33.0	38.5	22.7
C	2.0	91.3	46.2	6.0	85.8	82.0	81.1	3.7	8.8	16.1	42.3



＜図 1＞ 項目別集計結果

アンケートの集計結果から①「メモる」④「トラブる」⑧「ちくる」の使用率は高く、一般的になってきていると思われる。⑨「皮肉る」⑩「駄弁る」は認知率が高いものの使用率は5割前後である。「皮肉る」は1910年代、「駄弁る」は1920年代の古くから用いられてきたル言葉である。「きゃびる」は認知率は5割ぐらいで、10代、20代が主に使用し、若者ル言葉である。今回のアンケート調査で認知率が一番低かったのは「アムる」「江川る」である。②「アムる」⑤「江川る」は人名に「る」をつけたル言葉で、流行語として一時流行してすでに使われなくなったと思われる。

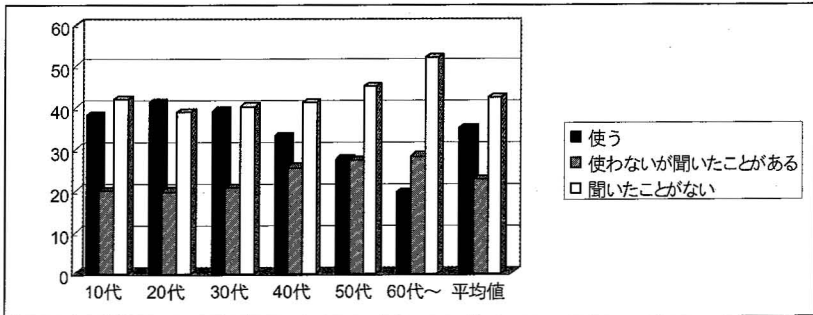
4-7 年代別集計結果

ル言葉の使用率を年代別に集計したものを次の<表10>に示す。<図2>は<表10>をグラフ化したものである。

<表10> 年代別集計結果

(単位：%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	平均値
A	38.0	41.3	39.1	33.1	27.5	19.7	35.0
B	20.0	19.8	20.7	25.6	27.3	28.3	22.7
C	42.0	38.9	40.3	41.3	45.1	52.0	42.3



<図2> 年代別集計結果

<表10>に示したように10代、20代、30代の使用率は4割前後である。40代以降から、使用率もだんだん減っているが、差はそれほど大きくはない。40代、50代、60代の認知率はほぼ同じ割合を示している。

5、まとめと考察

5-1 項目別

全体の使用率を年代別に見ると、10代から30代の選択率は同じ割合を示している。40代以降から、使用率もだんだん減っているが、差はそれほど大きくない。今回のル言葉に関するアンケートでは、①「メモる」④「トラブる」の使用率ももっとも高く、若年層に限らず一般的に

認知されるようになってきていると思われる。外来語からできた「メモる (memo)」「トラブる (trouble)」はももとの外来語の発音に近く、原語を復元しやすいことも広まっている一因と考えられる。

②「アムる」⑤「江川る」は人名に「る」をつけたル言葉で、流行語のように一時流行してすでに使われなくなった「死語」に近づいていると思われる。2000年に出された『現代く死語ノートⅡ』の1996年の死語に「アムラー」が挙げられている。「アムラー」は安室奈美恵の髪型、ミニスカートにブーツといったファッション、日焼けまで真似した彼女たちのことを指す。「アムる」という言葉もその当時に出現したのではないかと考えられる。「アムる」は「安室 (あむろ)」(ラ行音が末尾にある点)が動詞の活用形を連想させるところから、発生したのではないかという説もある。

人名に「る」をつけたル言葉は古いものは1910年代の「権兵る」(ごんべる)「原敬る」(はらける)「ジゴマる」があり、続いて「タゴる」「ノラる」「しではる」「田淵る」(たぶちる)などが現れた。最近では「エビる」というル言葉を使うようだ。人気モデル蛭原友里のまねをする意味のこのようなル言葉は流行語・世相語としてブームになっている時だけ使われるので、あまり定着しないように思われる。

⑥ガストで食事する「ガスる」は店の名前に「る」をつけたル言葉で出店数の多少により認知度に地域差が出てくると思われ、本調査での認知度は低い結果になっている。自由記述欄には、ジョイフルの方が身近な気がするから「ガスる」ではなくて同じようなファミリーレストランの「ジョイフル」から出た「ジョイフル」だったら「使う」という人や「聞いたことがある」という記述が見られた。

今回のアンケート項目にガストに行く⑥ガスるとガスが発生する⑦「ガスる」を選らんだのは、使用率に差が出るのではないかと予想したためである。結果から見ると、予測した通りに⑥ガスるは10代、20代がよく使うに対して、⑦ガスるは40代、50代の使用率が高かった。年代別の差は見られたものの、全体的な認知率はともに低かった点が共通している。それは同形のル言葉で意味が異なるために誤解を生じるおそれがあり、両者ともに使用しなくなることが要因と考えられる。

今回のアンケート項目の「ちくる」と前回のアンケートの「告る」は「話す」という意味で共通部分がある。全体の使用率はだいたい同じで5割程度である。しかし、「告る」は主に10代、20代に集中しているのに対して、「ちくる」はどの世代も使い、認知度は高い。理由として、「ちくる」のほうが「告る」より古くからあるという理由も考えられるが、「告る」は愛を告白する意味でプラスイメージであるのに対して、「ちくる」はマイナスイメージを持ち、ル言葉などの若者語はマイナスイメージのほうが広がりやすいという若者語の傾向を反映しているのではないかとと思われる。

「皮肉る」「駄弁る」は高い使用率を示している。「皮肉る」は小説・漫画などでも使われている言葉なので「ル言葉」であるというようだ。「駄弁る」についてであるが、「ダベリング」として使われた時期があったようだ。これは、おそらく発音が社会言語学で使う「ラベリング (labelling)」のように「ラベル」とい外来語に ing をつけるという点が似ているので「ダベる」に ing をつけて「ダベリング」と使われたのではないかとと思われる。

「皮肉る」は「皮肉」という単語レベルではよく使う言葉なので、ル言葉になっても理解されやすいと思われる。

第二回のアンケート調査で使用率が高かったのは「メモる」「トラブる」「ちくる」「皮肉る」「駄弁る」であるが、これらの言葉は使う機会が他の言葉に比べて多いのではないかと考えられる。つまり、使う機会や場面がなければ、たとえ知っていても使用率は減ってくると思われる。

5-2 語構成とプラス・マイナスイメージ

第一回と第二回の調査を合わせて外来語起源のル言葉と漢字ル言葉の使用率と認知率を比較して見ると次の<表11>のようになる。

<表11> 外来語ル言葉と漢字ル言葉の比較 (単位：%)

	外来語ル言葉	漢字ル言葉
使用率	63.2	51.6
認知率	80.0	83.1

漢字ル言葉の使用率が少ないわりに認知率が外来語ル言葉より高い。たとえば、「告る」「無視る」「皮肉る」「駄弁る」という言葉を知らなくても、意味を推測しやすいために認知率は高くなったのではないだろうか。つまり、漢字ル言葉は、外来語ル言葉より意味に透明で分かりやすいと言えるのではないかと考えられる。

第二回目調査語の3拍ル言葉と4拍ル言葉の使用率と認知率を比較して見ると、次の<表12>のようになる。

<表12> 3拍語ル言葉と4拍語ル言葉比較 (単位：%)

	3拍語ル言葉	4拍語ル言葉
使用率	30.9	43.5
認知率	53.8	66.3

表12に示した通り、4拍のル言葉の使用率、認知率は3拍ル言葉の使用率、認知率より高い割合を示している。

第一回と第二回の調査語の3拍ル言葉と4拍ル言葉の使用率と認知率を合わせて比較して見ると次の<表13>のようになる。

<表13> 3拍ル言葉と4拍ル言葉比較 (単位：%)

	3拍ル言葉	4拍ル言葉
使用率	37.2	54.9
認知率	63.2	81.0

表13に示した通り、表12と同様に4拍語のル言葉の使用率、認知率は3拍語ル言葉の使用率、認知率より高い割合を示している。漢字二字熟語のほとんどが4拍語で安定しているのとの関係があるかもしれない。

第一回と第二回の調査語をプラス、ニュートラル、マイナスイメージとして分類したのが次の<表14>のようである。

<表14> プラス、ニュートラル、マイナスイメージ比較

プラス (1)	ニュートラル (5)	マイナス (12)
告る	メモる、アムる、きゃびる、ガスる、駄弁る	パニクる、ネグる、ダブる、ミスる、トラブる、ボコる、ばくる、きよどる、ちくる、無視る、江川る、皮肉る

<表14>に示した通り、プラスイメージの言葉が「告る」1語だけで、ニュートラルイメージが5語、マイナスイメージが12語で、マイナスイメージの言葉が多い。プラス、ニュートラル、マイナスイメージのル言葉の使用率、認知率を比較して見ると次の<表15>になる。

<表15> イメージごとのル言葉の使用率、認知率を比較 (単位：%)

	プラス	ニュートラル	マイナス
使用率	50.5	25.3	46.4
認知率	87.9	46.7	73.6

<表15>に示した通り、使用率が一番高いのはプラスイメージのル言葉である。次にマイナスイメージのル言葉、ニュートラルイメージのル言葉である。しかし、調査項目にプラスイメージのル言葉が1語しかなかったので、一般論としては断定し難い。

5-3 ル言葉の三分解

第一回と第二回の2回のアンケート調査の結果より、ル言葉を「若者ル言葉」「一般ル言葉」「消失ル言葉」と三分類できる。

「若者ル言葉」とは主に10代・20代が使い、30代以上の年代ではあまり使われない語である。例えば、告る、ボコる、ばくる(盗む)、キョどる、無視るなどである。

「一般ル言葉」とは年代を越えて認知され、使われる語である。例えば、ミスる、パニクる、ダブる、メモる、トラブる、ちくる、皮肉る、駄弁るなどである。

「消失ル言葉」とは一時的な流行語として使われても現在ではほとんど使われなくなった語、すでに死語となった語である。例えば、「ネグる」「アムる」「江川る」などである。

6、今後の課題

本調査の対象者は山口県出身者が多数を占めたため、地域による違いは明らかにできなかった。たとえば、「霧・もやがかかる」意の「ガスる」はもとは北海道がルーツの言葉ではない

かと言われている。また、盗む意味で使われる「ぱくる」「ぱちる」も地域差が予想される語である。

ル言葉には例えば、病院で使われている「アボる」(「アボ」はドイツ語 Abort (流産) から流産する。)[「エデまる」(英語 edema (浮腫) から、浮腫があること)、テレビ業界で使われている「ハウる」(英語 howling から、ハウリングする) 暴走族で使われている「コンバル」(英語 combat から、けんかをする) など集団語がある。本稿では、このような集団語の一種の職業的集団・分野の語(業界用語・職場語)の調査が不十分であったので今後の課題とした。

【参考文献】

東照二 (2004) 『社会言語学入門』 研究社

飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子 (2004) 『新世代の言語学』 くらしお出版

小林信彦 (2000) 『現代く死語』 ノートⅡ 岩波新書

真田信治・渋谷勝己・陣内正敬・杉戸清樹 (2004) 『社会言語学』 おうふう

相村知美 (2005) 「学校社会における『はみご』についての考察」

全国語学教育学会・日本教育カウンセラー協会 『山口支部研究紀要』 第10号

鄭香蘭 (2007a) 「若者語におけるル言葉について～歴史的な流れ」 山口大学人文学部 『文学会志』 第57号

鄭香蘭 (2007b) 「若者語におけるル言葉について～アンケート調査の分析～」 山口大学人文学部国語国文学会 『山口国文』 第30号

米川明彦 (1996) 『現代若者ことば考』 丸善株式会社

米川明彦 (1997) 『若者ことば辞典』 東京堂出版

米川明彦 (1998) 『若者語を科学する』 明治書院

米川明彦 (2003) 『日本俗語大辞典』 東京堂出版

[付記]: 『山口大学文学会志』 第57巻に示したル言葉の初出よりも古いものが、小学館『日本国語大辞典』(第2版)で確認できたものの出典の年代と例文を以下に示す。

ちわ(痴話・千話)る: (「痴話」を動詞化したもの) 男女がむつごとをいう。いちゃつく。また痴話狂いをする。1782年の洒落本『太平楽巻物』に「あげまきに助六、小むらさきに権八ともいふやうな、末の世までもうたはれるやうな事なく、ただわけもなくちわるも有」と記されている。

じぐ(地口)る: (「じぐち(地口)」の動詞化) 地口を言う。しゃれを言う。1788年の洒落本の『一目土堤』の中には「アア、ちぐり出してはむつかしひ」とある。

やじ(野次)る: (「やじ」の動詞化) 人の言動に非難やからかいのことばを浴びせる。また、味方を応援するために言動を妨害して、あざけりはやしたてる。1787年の洒落本『田舎芝居』に「惣六じゃアねへか。何のうやじり合ウのだ」とある。

せじ(世辞)る: (「せじ(世辞)」の動詞化) 愛想を言う。せじを言う。1886年の『内地雑居未

来之夢〈坪内逍遙〉の中に「件(くだん)の『居候君』に『世辞(セジ)る』体(てい)なく」とある。

だじゃれ(駄洒落)る：(「だじゃれ」の動詞化) つまらない語呂合わせをする。まずいしゃれことばを作る。1892年の『三人妻』〈尾崎紅葉〉に「人に金もらひ。好いた男を手に入れ、女は大々と秘密を知れものの駄洒落(ダジャレ)けり」とある。

ノラる：(「ノラ」を動詞化したもの) 女性が、イプセンの戯曲「人形の家」の女主人公ノラのように、家や夫や子供の束縛のがれて自我のおもむくままに行動する。1918年『改訂増補や此は便利だ』〈下中芳岳〉に「ノラる『ノラ』はイプセン劇『人形の家』の女主人公、これが思想的覚醒から、夫や子供を見捨てて家出するより、総て『だだっこ』の妻君が、夫を赫さうとして一寸家出したりするのを『ノラる』といふ」とある。

ダブる：(名詞「ダブル」を動詞化した語) 二重になる。重なる。また重ねる。1927年の『橋』〈池谷信三郎〉の中には「今度は暗い露路に面した劇場の楽屋口が、その部屋の情景にかぶさってダブって来た」とある。

ぐち(愚痴)る：(名詞「愚痴」の動詞化) 愚痴を言う。不平や小言(こごと)をもらす。1906年の『其面影』〈二葉亭四迷〉の中に「何しても両雄舌を揃へて愚痴るんだから堪らねえ」とある。

だべ(駄弁)る：(「だべん(駄弁)」を動詞化したもの) 駄弁を弄すること。1919年の『模範新語通語大辞典』に「其源(みなもと)を第一高等学校に発す。名詞を動詞状に変化させて用ふることは同校の一手専売といふも可なり」とある。

ずべる：なまける。ずるける。1928年の『アパートの女たちと僕と』〈龍胆寺雄〉の中には「そのまま彼は僕の隣へ席をとった。——いつの間にずべったのか姿を消してしまった植村の席へ」とある。

だく(駄句)る：(「駄句」を動詞化した語) 駄句を作る。へたな俳句をひねる。1924年の『ロシアに入る』〈荒畑寒村〉に「日本は桜さかんを今日の雪と駄句る」とある。

まんだ(漫談)る：(「まんだん(漫談)」を動詞化) 漫談をする。漫談で一席うかがう。1930年の『アルス新語辞典』〈桃井鶴夫〉の中に「漫だる又はマンダールと仮名にても書く。漫談を動詞にした語で漫談をするの意」と記されている。

デモる：(「デモ」の動詞化) デモンストレーションをする。デモ行進して歩く。1958年『車の夜』〈野間宏〉に「なんだと思ったら、デモってるところだな」とある。

トラブる：(「トラブル」の動詞化) もめごとを起こす。いざこざを起こす。また、故障する。俗ないい方。1975年の『新西洋事情』〈深田祐介〉の中に「船来女房愛すべしたちらの放浪娘との間でトラブったりする心配はあんまりない」と記されている。

どじる：(「どじ」の動詞化した語) 間抜けなことをする。失敗する。へまをする。しくじる。とちる。どじを踏む。1930年の『浅草日記』〈川端康成〉の中に「このどうにでもなれと、棄鉢に心の荒れた時には妙なもので、きつとどちってしまふ」と記されている。

(テイ・コウラン)

別添資料1

「る言葉」に関するアンケート No.2

日本語で「る」がついて新たに動詞を作る言葉、たとえば「サボる」のように「サボタージュ」の略「サボ」に動詞化する接尾語「る」をつけた言い方のことを「る言葉」と言います。以下のアンケート調査にご協力お願い致します。

質問1. 以下の文章の「る言葉」について「A. 使う」「B. 使わないが聞いたことがある」「C. 聞いたことがない」のいずれかに○印をつけてください。

- ① メモ帳を愛用していて、気づいたことはメモっている。
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない
- ② 今日はちょっとアムって見た。
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない
- ③ いつもの散歩コースでお逢いしたおばあちゃまはなぜかいつも、きゃびってる。
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない
- ④ 人の話を最後まで聞けなかったために、トラブるという場合がよくある。
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない
- ⑤ ぜんぜん、連絡がとれなくなった。江川るつもりか!!
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない
- ⑥ この写真は、先週の日曜日に後輩とガスった時（ガストで食事した時）に撮ったものだ。
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない
- ⑦ 私の願いはこのガスった空を突き抜けて、天の川まで届いてくれるのだろうか。
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない
- ⑧ 私がなんかミスや勤務とは違った事したら、すぐちくって、リーダーに報告する人がいる。
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない
- ⑨ この曲の詞はさりげなく世間を皮肉ってる感じがして好きだ。
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない
- ⑩ 休みの日はみんなでワイワイ飲みながら楽しく駄弁る。
 A. 使う B. 使わないが聞いたことがある C. 聞いたことがない

質問2. 「る言葉」を聞いたとき、どんな印象を受けますか。アンケート項目の他に、どんな「る言葉」を使いますか。

出身 () 都・道・府・県 性別 (男・女) 職業 (学生・社会人・その他)
 年齢 (10代・20代・30代・40代・50代・60代～)

ご協力ありがとうございました